

## 謹賀新年



新年明けましておめでとうございます。

旧年中はご愛顧、ご鞭撻賜りまして誠に有難うございます。改めまして厚く御礼申し上げます。

さて、弊社が2014年より取り扱ってまいりました米国 Implant Direct社製インプラントは、現在販売本数におきましては北米で第3位のシェアを獲得しております。

お陰様をもちまして、日本国内におきましても2014年のレガシーシステム販売を皮切りに、2015年度末にはインタラクティブシステムを追加し、以来着実に認知され、年々倍々の成長を続けてまいりました。インプラント業界全体のボリュームが停滞する中、これだけのスピードで増加いたしましたのも偏に先生方の日頃のご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。昨年末にはスイッチシステムも上市し、これで Implant Direct社が持つ世界ビック3のインプラントメーカー全てに対応した製品ラインナップが出揃うことになりました。

先生方の多くは、患者様や症例に応じて複数種のインプラントシステムを採用しておられます。また、今後使い分けしていきたいとお考えの先生方も多くいらっしゃいます。

しかし、そうするためには手術毎に器具も使い分ける必要があり、先生のみならず、コ・デンタルスタッフの方々もその管理や準備が大変だという声が多く聞こえてまいります。

この Implant Direct社が持つラインナップは世界のメジャーなインプラントシステムを網羅しており、品質の維持はもとより、更に進化させ、且つコストパフォーマンスを兼ね備えたシステムとして先生方並びに患者様のお役に立てるものと考えております。従いまして、私共も本年度は更に充実させたセミナー企画等を各地で実施してまいります。これらは順次先生方に本ニュースレター等でご案内させていただきます。

また、本年度より「インプラテックス Implant Direct社製品保証プログラム」を実施いたします。この保証プログラムは他社と比較しても同等もしくはそれ以上の内容となっており、先生方並びに患者様にとりましても更に安心してお使いいただけるシステムとなるものと考えております。なお、この保証プログラムの詳細につきましては弊社担当までお問合せください。

さらに、私共は一昨年よりインプラント治療における診査診断から最終補綴までのデジタルソリューションとして、診査診断 → 治療計画 (シミュレーションソフト「アイキャット社ランドマーカー」) → インプラント埋入 (アイキャット社ガイドシステム) → 補綴設計 (スキャナー & CAD) → ミリング (CAMIによるカスタムメイドアバットメント作製) といった一連の流れを整えました。特に弊社では東西2ヶ所のミリングセンターと提携しており、先生方が現在お取引されている技工所様を經由して、カスタムアバットメント等のCAD/CAM製作をお受けしております。この2ヶ所の提携先ミリングセンターにおきましては弊社取扱いインプラントのみならず多くの他社インプラントにも対応可能となっております。また、弊社提携先ミリングセンターにてカスタムアバットメント(他社インプラント用含む)をご発注いただきますと、先生方には更なる特典もご用意させていただいております。この詳細につきましても弊社担当にぜひお問合せください。

最後に、先生方におかれましても本年が良い年でありますよう、心よりお祈り申し上げますと共に、本年も相変わリませず何卒よろしくお願ひ申し上げます。

株式会社インプラテックス 代表取締役 北山 良計



## インプラテックス

### Implant Direct社製品保証プログラム

Implatex Implant Direct products WARRANTY PROGRAM

この度、弊社は「インプラテックス Implant Direct社製品保証プログラム」を開始いたしました。Implant Direct社インプラントシステムのユーザーの先生方には、別途ご案内を封書にてお送りいたします。詳細をご確認ください。

また、まだご導入いただいていない先生でご興味のある方は、弊社までぜひお問い合わせください。

保証内容の詳細等、弊社担当がご案内いたします。

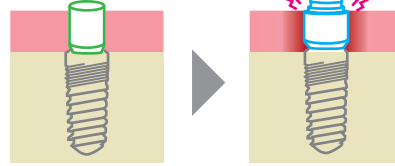


## テクニカルインフォメーション

# スクリー固定式アバットメントを使用した補綴における注意点

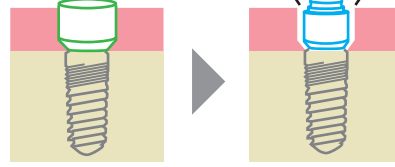
ImplantDirect社の各インプラントシステムのヒーリングカラーの直径は、スクリー固定式(SCR)アバットメントのカラー部直径(φ5mm)と差異があるものがあり、歯肉の治癒時、アバットメントに対して、①少し小さめ(アバットメント装着時、アバットメントが入らない)、もしくは、②少し大きめ(アバットメント装着時、歯肉とアバットメントの間に隙間ができる)になることがあります。

① 小さいヒーリングカラーで歯肉が治癒した場合



φ5mmのスクリー固定式(SCR)アバットメントの装着時、歯肉を押し上げないと装着できず、歯肉に負荷を与えます。

② 大きいヒーリングカラーで歯肉が治癒した場合



φ5mmのスクリー固定式(SCR)アバットメントと歯肉にすき間ができてしまいます。

## ▼そこで、下記の方法にてご対応ください▼

### ■ インタラクティブ/スイッチアクティブの場合

カラー部直径φ5mmの歯肉の高さに合ったヒーリングカラーを使用してください。



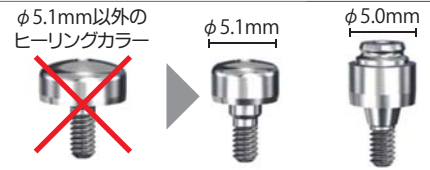
### ■ レガシー1、2、3の場合

すべてのプラットフォームでヒーリングカラーを使用せず、プラットフォームと歯肉の高さに合ったスクリー固定式(SCR)アバットメントを装着してください。



### ■ スウィッシュプラス/スウィッシュテーパーの場合

カラー部直径φ5.1mmのヒーリングカラーを使用するか、ヒーリングカラーを使用せず、プラットフォーム・歯肉の高さに合ったスクリー固定式(SCR)アバットメントを装着してください。



※ヒーリングカラーの代わりにスクリー固定式(SCR)アバットメントを装着した場合:

口腔内粘膜、および、アバットメント頭部の保護のため、アバットメントに付属している「アバットメント用キャップ」を装着してください。



※スクリー固定式(SCR)アバットメント15°・30°(角度付)を使用する場合:

ヒーリングカラーを使用せず、プラットフォーム・歯肉の高さに合ったスクリー固定式(SCR)アバットメント15°・30°(角度付)を装着してください。



※観血下でアバットメントをインプラントに装着する場合は、事前にアバットメントを滅菌しておいてください。

## インプラント治療に欠かせない患者の全身チェックを院内でも簡単に!

簡易血液検査キット

# DEMICAL® インプラントリスクチェッカー



同商品を導入されている鈴木郁夫先生による使用事例を含めたお声をご紹介します。



鶴見中央歯科クリニック  
鈴木郁夫先生

### 「インプラントリスクチェッカー導入にあたって」

院内では以前からインプラントのオペを行う際に、東京歯科大学の井上孝教授が提唱しておられる検査(術前スクリーニング等)が必要だと常々思っていました。しかし院内での血液検査はなかなかハードルが高く、採用できなかった経緯があります。また、従来は提携している内科での検診データを頂くようにしておりましたが、内科での採血が面倒であるという理由で、持参される患者が少ないのが現状でした。よって問診での判断を余儀なくされておりましたが、今回指先から採血可能な『インプラントリスクチェッカー』を採用する

ことにより、患者の体の状態を把握できるようになり、安心してオペに臨めるようになりました。

過去の事例としては、生体モニターで数値を確認しながら、血圧が高めの40代男性のオペ中に、急に気分が悪くなりオペを中止した事や、来院時にすぐにオペをしてほしいという患者もあり、対応に苦慮した記憶もございます。患者は様々な疾患を持っている可能性がありますので、歯科医療に検査は必要ですし、歯科治療に来院された患者から、疾患を発見(未病の発見)することも可能になります。国立大学に口腔検査センターの設置が決まったことも、時代の流れではないかと存じます。

地域の医療サテライトとして、また歯科医療に検査の文化を根付かせていく事が医療人としての役割ではないかと思えます。

「インプラントリスクチェッカー」の詳細・お申込みにつきましては、弊社WEBサイトもしくは同封案内状をご覧ください。